

「令和元年度採材及び林地残材の活用に関する検討会」を開催しました

6月27日（木）に、十和田市の生内国有林において、関係林業事業者、近隣自治体の林業担当者、東北森林管理局及び当署の担当者など72名が参加して採材検討会を開催しました。

検討会では、まず東北森林管理局資源活用課から「合板用材の4m採材の徹底」、「広葉樹資源の有効利用」、「需要動向の変化」、「安全関係」について説明がありました。特に需要動向の変化について、県内ではバイオマス発電所とLVLの新たな工場の稼働など、新たな需要が丸太の動きや価格にも影響を与えていること、平成30年度委託販売結果・今年度直近の委託販売結果の価格動向を踏まえた説明がありました。

続いて、当署担当者からはスギ・カラマツ・アカマツの積極的な4m採材や、家具材やフローリング材等の需要が高くなってきている広葉樹の一般材採材について説明があり、その後、参加者は3班に分かれ、実際に用意されたスギと広葉樹（ク）の採材方法の検討を行いました。

今回の採材検討会においては、青森県森林組合連合会・ノースジャパン素材流通協同組合の担当者様から、県内の木材需要動向や採材する際の注意点といった情報提供があり、木材を生産する側と販売する側の情報交換の場としても、意義ある検討会となりました。

署から説明

採材の検討（広葉樹）



検討会の様子

採材の検討（広葉樹）



午後は、東北町字外蛭沢後久保国有林に場所を移して林地残材の活用に関する検討会を開催しました。みちのくバイオマスエネルギー株式会社の担当者様より、林地残材の集材方法や山土場でのチップ生産、移動式チップパーの性能等について説明がありました。枝葉やタンコロを収集し皆伐跡地をきれいにするることにより、その後の地拵え、植え付け作業が軽減される可能性がある」と検討されました。今回の検討会は、森林資源の有効活用や林業経営、施業の多様化を考える良い機会となりました。

検討会の様子



枝葉をチップ化



枝葉の収集



枝葉の収集



枝葉を収集後の林地

